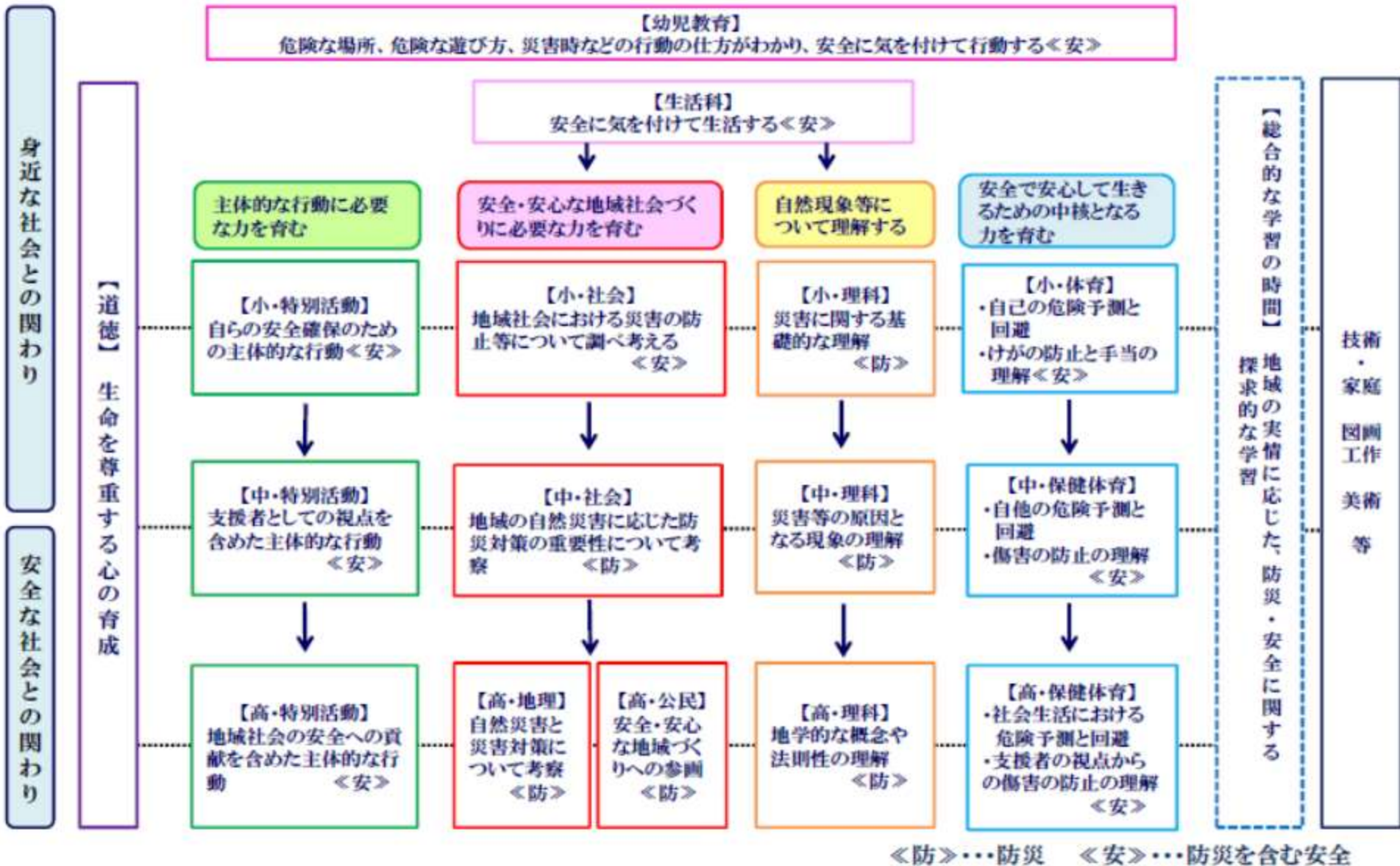


防災教育

○ 防災教育のねらい

- ア 自然災害等の現状、原因及び減災等について**理解**を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、**的確な思考・判断**に基づく**適切な意志決定**や**行動選択**ができるようにする。
- イ 地震、台風の発生等に伴う**危険を理解・予測**し、**自らの安全を確保するための行動**ができるようにするとともに、**日常的な備え**ができるようにする。
- ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に**進んで参加・協力**し、**貢献**できるようにする。

○ 防災を含む安全に関する教育のイメージ



「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別紙」（中央教育審議会）

○ 学校における防災教育の実施状況 (平成30年度)

	調査対象	指導している学校	教科	総合的な学習の時間	学校行事	児童会・生徒会活動・クラブ活動	学級活動 ホームルーム活動	その他
合計	35,793	35,690 (99.7%)	18,865 (52.7%)	11,505 (32.1%)	28,987 (80.9%)	4,567 (12.7%)	26,216 (73.2%)	2,241 (6.2%)
小学校	19,411	19,394 99.9%	10,775 55.5%	6,231 32.1%	16,912 87.1%	1,967 10.1%	14,916 76.8%	1,108 5.7%
中学校	10,072	10,042 99.7%	5,659 56.2%	3,904 38.8%	7,198 71.5%	1,724 17.1%	7,246 71.9%	667 6.6%
義務教育学校	87	87 100.0%	56 64.4%	38 43.7%	69 79.3%	25 28.7%	64 73.6%	8 9.2%
高等学校	5,040	4,987 98.9%	1,959 38.9%	1,051 20.9%	3,909 77.6%	713 14.1%	3,217 63.8%	306 6.1%
中等教育学校	54	53 98.1%	21 38.9%	18 33.3%	41 75.9%	13 24.1%	40 74.1%	3 5.6%
特別支援学校	1,129	1,127 99.8%	395 35.0%	263 23.3%	858 76.0%	125 11.1%	733 64.9%	149 13.2%

出典:学校安全の推進に関する計画に係る取り組み状況調査(平成30年度実績)
 ※合計数は、表に記載のある学校を安全教育推進室において再集計した数値

●災害安全に関する指導している学校は、99.7%であり、概ね全ての学校において災害安全の指導が行われている。
 ※本調査は、学習指導要領(平成20年、21年告示)のもとで行われた調査である。

○ 防災を含む安全に関する教育

総則	体育科	特別の教科 道徳	理科	社会科	家庭科	特別活動	総合的な学 習の時間	生活科	図画 工作
<p>総則</p> <p>【特別の教科道徳第5学年及び第6学年】 A 主として自分自身に関すること [節度, 節制] 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。</p>	<p>体育科</p> <p>【特別活動】 【学級活動】 (2)ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 【学校行事】 (3) 健康安全・体育的行事</p>	<p>特別の教科道徳</p> <p>【特別活動】 【学級活動】 (2)ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 【学校行事】 (3) 健康安全・体育的行事</p>	<p>理科</p> <p>【理科・第5学年】 B 生命・地球 (3) 流れる水の働きと土地の変化 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ウ) 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。</p>	<p>社会科</p> <p>【社会科・第5学年】 (5)ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。</p>	<p>家庭科</p>	<p>特別活動</p>	<p>総合的な学習の時間</p>	<p>生活科</p>	<p>図画工作</p>
<p>小学校学習指導要領(平成29年告示)総則</p>									

○ 防災を含む安全に関する教育

ポイント

- 安全教育の目標は、日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるよう、安全に関する資質・能力を育成する
- 各学校においては、児童生徒等や学校、地域の実態及び児童生徒等の発達の段階を考慮して学校の特色を生かした目標や指導の重点を計画し、教育課程を編成・実施していくことが重要

○ 防災を含む安全に関する教育

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養



安全に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。

生きて働く知識・技能の習得



様々な自然災害や事件・事故等の危険性、安全で安心な社会づくりの意義を理解し、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成



自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。

出典: 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育

○ 防災を含む安全に関する教育

生きて働く知識・技能の習得

各教科等における防災教育



社会科「くらしを支える情報
(緊急地震速報について)」

あらゆる時間・場面を活用した指導



学校行事「運動会における防災の
視点を取り入れた種目」

知識をもとに判断し適切に行動できるようにする



理科「流れる水のはたらき」



学級活動「登下校中の安全(地震が発生したら・・・)」

小・中合同研修会の実施



「防災教育カリキュラムの作成」

育成すべき資質・能力の明確化→
各教科等における指導の計画

掲示物による日常の啓発



○ 防災を含む安全に関する教育

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

地域の災害リスクについて考える

防災の専門家、地域住民からの情報をもとに地域の防災上の課題について探求的に学習する



総合的な学習の時間「地域防災マップをつくろう」

状況に応じて、自分の取るべき行動を判断し、行動する



「緊急地震速報を活用」



小・中学校合同避難訓練(地震・津波想定)



「火山噴火を想定」

○ 防災を含む安全に関する教育

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

地域の安全意識の向上を願って、自分たちが調べた地域の災害リスクを地域住民へ発信する

地域住民への防災意識の啓発



防災マップの発表会



所在地: 高知県

【まとめ(抜粋)】

- ・保育園とデイサービス「さくら貝」(高齢者施設)は海に近く津波の影響を受けると考えられる。避難経路にある橋も落ちる可能性がある。
- ・橋脚に亀裂があり、地震で崩れるのではないかと。→高台への移転、橋脚の修理へ

ボランティア活動

自分たちができる地域貢献活動を考えて取り組む



津波浸水地域での植栽活動



仮設住宅訪問・合唱披露



農地整備ボランティア活動

○ 防災を含む安全に関する教育

熊本県では、熊本地震の経験を踏まえ、災害時の対応が円滑に進むよう、県立高校に「防災」に重点を置いたコミュニティ・スクールを導入し、地域と学校の連携・協働を進め、地元自治体（市町村）との避難所指定の協定締結を進めるとともに、地元住民との合同防災訓練など、地域と一体となった取組を実施

背景・取組概要

熊本県では、平成28年(2016年)4月の熊本地震において、市町村との避難所指定の協定の有無に関わらず、多くの県立高校が避難場所となり、

- ・避難所運営に係る体制（教職員の役割など）が明確に整備されていない
- ・トイレや空調などの設備や備蓄品などが不足

などの課題に直面した経験から、**地域と一体となった防災体制の構築**に向けて、「**防災**」に重点を置いたコミュニティ・スクールを導入

工夫・ポイント

- ◆ 学校運営協議会の委員に、**関係機関職員や自治体職員など防災の専門家**を任命
- ◆ 学校運営協議会の承認事項に、**防災教育や県立高校を中心とした地域防災に関する事項を追加**することで、学校運営協議会を活用して、関係者が**学校だけでなく地域全体の防災の課題などを共有**



特徴的な活動

- ◆ **専門家や地域の意見を踏まえた学校防災マニュアルの策定**
- ◆ **地元市町村との避難所指定の協定締結**
- ◆ **学校と地域の合同防災訓練や避難所運営シミュレーション等の実施**



関係者の声

- (学校)「地域と合同で防災訓練を実施することで、生徒及び教職員の意識が高まった。」
(地域)「高校生が地域を学び、地域と関わることで、地域への愛着心や防災への認識も深まる。」
(生徒)「災害が起きた時に、私たち高校生が地域の方々を助けられるように取り組んでいきたい。」

- ◆ C S 導入状況（県立高校）
H28: 2校 → H29: 50校(100%)
- ◆ 避難所指定の協定締結数
40校（R2年8月時点）

○ 北海道教育委員会の取組

～防災教育に関わる資料の提供～



全国自然では、毎年のように台風や集中豪雨による洪水や土砂崩れが大都市圏でも集中豪雨などにより、住宅街や商業施設などが浸水する被害が頻りに発生しています。また、長連した暴風雨によって電線、大木、雷などが発生し被害を及ぼしています。

また、冬には、大雪や収雪により交通機関が麻痺するなど、一年を通じて気候の変化が私たちの生活に大きな影響を与えています。いざという日ごろから風水害や被害に対する備えについて考え、いざという日は行動がとれるようにしておきましょう。

北海道の気候

北海道は、年間を通じて気温と湿度が低く、四季の変化が顕著とされる「冷帯」にはないといわれていますが、豊から秋にかけては、台風が北海道に接近するの、平均して年に2回程度、大きな被害を及ぼることがあります。また、冬は、大雪により、交通機関が麻痺したり、雪崩、凍死、一酸化炭素中毒などの被害が発生しています。

平成 28 (2016) 年 8 月 台風 18 (2016) 号

台風の影響により十勝地方を中心に大雨が降りました。河川の氾濫により、自動車などが流されて死者、行方不明者が出たほか、家屋の浸水被害が発生しました。

豆知識

オホーツク地方により、長物に当たった建物などが倒壊し、死者や被害者が出たほか、家屋の浸水被害が発生しました。

- 1 暴風雨**
夏は台風が北上風気によって上空に押し上げられ、強い上昇気流により雲が成長を続けて暴風雨に変わります。暴風雨は、電線などの激しい揺れ、雷、雹、土砂などが降ります。
- 2 局地的大雨と集中豪雨**
「局地的大雨」は、大気の状態が不安定な時に発生し、短時間に大雨が降ります。強い雨雲に雲 10 層程度「集中豪雨」は、雨雲が低気圧などの影響で集中して降ることによって発生し、短時間に大雨が降ります。局地的大雨と集中豪雨は、100 層程度の積層雲と強い雨雲に降る強い上昇気流が原因です。

津波から命を守るために

「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」や「2004 年インドネシア・スマトラ沖地震」などの巨大地震では、揺れの直後に押し寄せた津波が、建物などを破壊し、多くの命を奪いました。

日本は海に囲まれており、これまでに何度も津波の被害を受けています。そのため、海沿いに住んでいる人はもちろん、海軍に出かける人も津波について理解し、備えておくことが大切です。

津波の情報を理解し、津波の恐れがある場合には、あわてず速やかに行動できるような備えをしましょう。



北海道の津波被害

平成 5 (1993) 年 7 月に発生した「平成 5 年 (1993 年) 北海道南西沖地震」では、地震発生後に奥尻島をはじめ北海道や東北地方の日本海沿岸などに津波が押し寄せました。地域によっては津波の高さが 30 メートル以上になるところもあり、震源に近い奥尻島を中心に地盤が津波、火災などにより死者 202 人、行方不明者 28 人の被害が生じました。



北海道には他にどんな津波の被害があったのかな？

海は青々として、静かに。日差しは暖かおとして、大きな波がたおれ、人々を溺らした。海に満ちた波が、家を、人を、つれとっていった。いよ青々と水をたたえる海、何もなかったように静かに。しかし、忘れてはならない人々の命をうばったあの夜のことを。私たちの命をのめるこんな日、おぼえておきましょう。

海は青々として、静かに。日差しは暖かおとして、大きな波がたおれ、人々を溺らした。海に満ちた波が、家を、人を、つれとっていった。いよ青々と水をたたえる海、何もなかったように静かに。しかし、忘れてはならない人々の命をうばったあの夜のことを。私たちの命をのめるこんな日、おぼえておきましょう。

豆知識 津波の言い伝え

古くから津波に襲われてきた三陸地方には、「津波でんでんこ」という言い伝えがあります。この言い伝えには、「津波が来たら、各自でんでんばらばらに倉倉へ逃げて自分の命を守る」という意味があります。また、津波の被害を受けた場所を伝えるため「此島より下に家を建てな」という祖先の歌が詠まれた石碑も数多く残っています。

大切な命を守るために

なかでも地震の多い国なんだから、外にわれたり、や災害がおきてくさいるみたいだよ。

で、

は、太平洋の海底や、海溝の深くで発生する地震などによる津波が心配されているんだ。

めに、てで考えようよ。



○ 北海道教育委員会の取組

・ 防災かるた（小学校1・2年生：国語、特別活動）



防災かるたをならべています。



かるた取りをしています。

○ ねらい

- ・ 地震や津波、火山、気象など、北海道の自然災害や、必要な防災知識を確認させる。
- ・ 確認した知識をもとに、「なぜその行動が必要か」を考えさせる。

○ 内容

- ・ 誰でも楽しめる「かるた遊び」を通じて、北海道の自然災害のリスクや防災に関する知識を学びます。

○ 関係機関の協力

- ・ 市町村防災担当部局や振興局職員が司会進行、解説

○ 北海道教育委員会の取組

・ 避難所設営体験（小学校3・4年生：総合的な学習の時間）



段ボールベッドを組立てています。



段ボールベッドの使い心地を確かめています。

○ ねらい

- ・ 災害時に学校が避難所になることを理解させ、避難時の行動を学ばせる。
- ・ 新型コロナウイルス等感染症拡大防止を踏まえた避難生活を考えさせる。

○ 内容

- ・ 学校が避難所になることを想定し、体育館で段ボールベッドを組み立てます。
- ・ 新型コロナウイルス等感染症拡大防止のため、2メートル間隔でベッドを配置するなど、区画整理を考えます。

○ 関係機関の協力

- ・ 市町村防災担当部局や振興局職員がベッド組立を説明

○ 北海道教育委員会の取組

・ 避難所運営ゲーム（中学校：総合的な学習の時間）



避難者の対応を考えています。



避難所運営について話し合っています。

○ ねらい

- ・ 避難所運営における様々な対応など、地域住民に協力できることを考えさせる。
- ・ 自らの備えについて考えさせるとともに、対応の意見を生徒間を出し合うことを通して、他者を尊重する意識をもたせる。

○ 内容

- ・ 北海道版「Doはぐ」を活用し、シミュレーション形式で、学校での避難所運営を体験します。
- ・ カードに示された様々な条件に対し、生徒が話し合いながら避難者の対応などを考えます。

○ 関係機関の協力

- ・ 市町村防災担当部局や振興局職員が進行、解説

○ 北海道教育委員会の取組

・ 関係機関との連携（地図情報を活用した出前講座）

- ・ 国土地理院北海道地方測量部が講師となります。
- ・ 地図情報を活用した避難訓練、UAV（ドローン）を活用した災害対応の紹介、ドローン操作シュミレーション（※）、アナグリフ画像での地形の体感します。

※ドローン操作シュミレーションは、少人数学級に限る



地図記号の座学のほか、実際に地図（防災マップ）を使って、避難所まで避難します。



UAV（ドローン）の撮影状況等の動画を上映し、災害対応に必要な情報を学びます。



赤青（3D）メガネで地図を立体的に見て、土地の高低を体感し、山地、台地の地形を学んでいます。

○ 北海道教育委員会の取組

R4-11

日常の学びと災害時の避難行動を結び付けた「一日防災学校」

内 容

1 教科による防災関連授業（「一日防災学校」の午前中に生徒が学んだ内容）

(1) 1学年・2学年「保健」～防災対策

防災に関する知識と応急手当の意義を学んだほか、防災協会の指導員による実践的な応急手当の実技指導を実施した。

(2) 1学年「地理総合」～火山災害と防災

ハザードマップなどを活用し、火山災害を題材に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応の重要性等について多面的・多角的に考察した。

(3) 3学年「政治・経済」～防災対策について

札幌市や地区センターが発行する防災マップなどの資料を活用し、安心・安全な地域づくりへの参画や防災関係制度に関する知識を身に付け、防災対策の充実や地域課題等について理解を深めた。

2 災害時の新型コロナウイルス感染症対策について

各学級において、自然災害を想定して食料等を備蓄しておくことの重要性について学んだほか、災害時においてもマスク着用やアルコール消毒など感染症対策が必要であることについて指導した。

3 「一日防災学校」と連動した避難訓練

午前中の教科による防災関連授業をとおして、生徒が防災避難行動への意識を高めた上で、午後に避難訓練を実施した。生徒が整然と避難行動を行う姿からは、「一日防災学校」の諸事業等の成果が見取られ、例年以上に緊張感のある避難訓練となった。



○ 留意点

- 教科横断的な視点から教育課程を編成し、防災を含む安全に関する教育を進めること。
- 日常から、研修や訓練など行い、防災に対する理解を深めておくこと。

参考資料

【防災教育啓発資料】



(写真提供：総務省消防庁)

